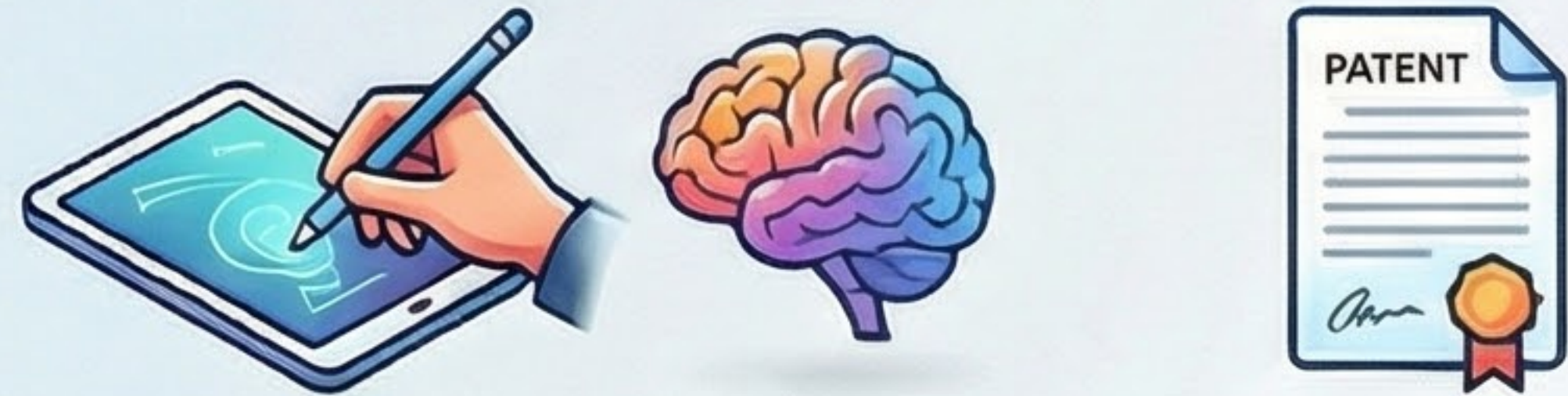


2025年 米国知財実務とAI：規律と変革の年

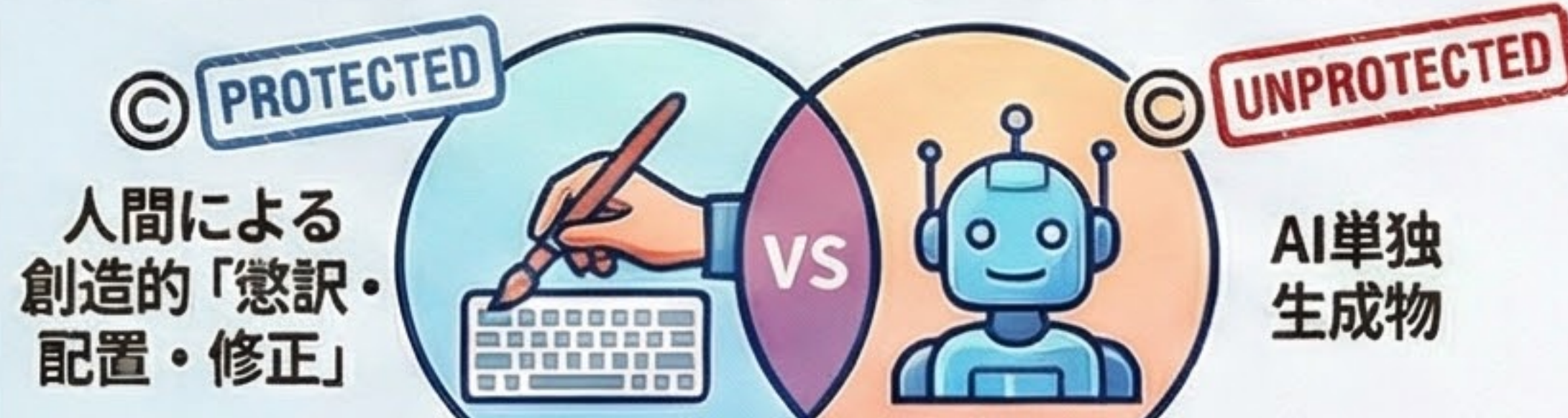
法規制と司法判断の分岐

特許：AIは「発明者」ではなく「ツール」



USPTOの新ガイダンス: 人間の「着想」を重視し、AIを発明者と認めない方針

著作権登録：AI単独生成物は保護対象外



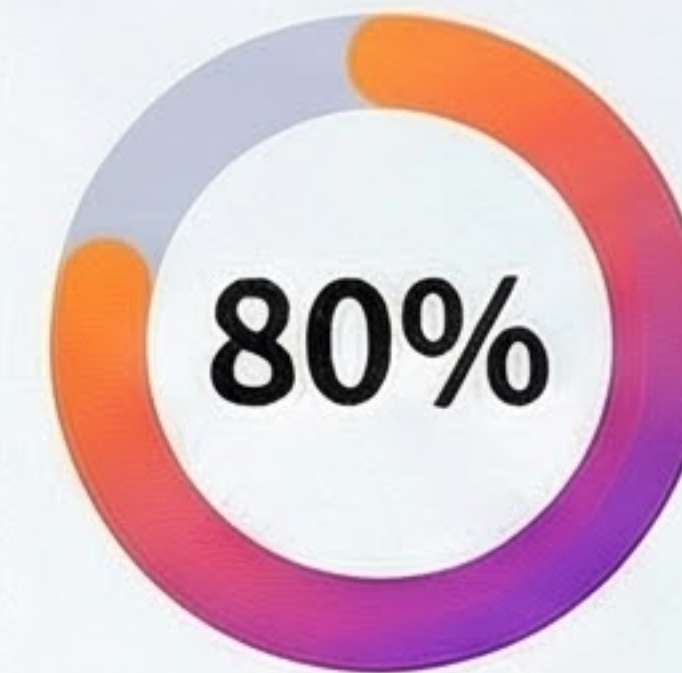
USCO：ハイブリッド作品のみ保護

AI学習データの適法性：フェアユースを巡る司法判断は分裂



実務の進化と倫理的義務

米国法律事務所の80%が生成AIを導入済み



文書の要約
(77%)



法源リサーチ
(69%)



ドラフト作成
(60%)

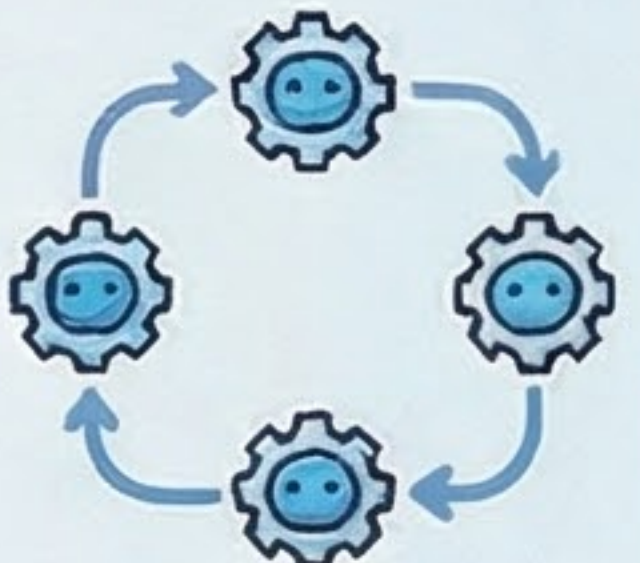
実務の進化：「エージェンティックAI」が主流に
人間の役割は「作業員」からAIの自律的ワークフロー
を監督する「監督者」へ変化



作業員



監督者



AIエージェント

倫理リスク：AIハルシネーションへの制裁が厳格化



AIが生成した架空判例の引用は
重大な倫理違反



罰金



懲戒請求